

JAN  
27



令和5年度 主催事業

マンスリー／ファミリー

ネイチャーゲームのご報告



参加家族：3組（11名）、職員・スタッフ3名



1月テーマ：感覚を研ぎ澄まして森の一部になろう

暦は「大寒」とはいえ、穏やかな天気、冷たい風が吹くこともなく、冬の暖かな由加の森を楽しむことができました。

「冬の自然って寒いだけ」と思う人が多いようですが、冬だからこそできる活動、感じられるものがたくさんあります。その一部でも感じてもらえたらと思います。今回は冬の森にどっぷりと浸ってもらいました。今回の参加者は、3家族11名という少ない人数でしたが、その分、たっぷりと体験ができました。最初に「森の妖精」というゲームで、森の中にかくれている妖精を探すことをしました。かくれている人も探す人もときどき、わくわくの時間でした。





そして、その流れのまま、森の奥へ奥へと探検を続けました。ときにはすべったり、転んだりしながらも笑顔で歩く姿はとてもたくましかったです。

今日のメインは、「大地の窓」という活動です。落ち葉に埋もれて、顔だけ出して大地となり、森の一部となるものです。落ち葉の中はふわふわと温かくて気持ちいいです。親子で大地となっている様子はすてきな光景で、静かな時間が過ぎていく感じでした。

このように、森の中を自由に遊べるのは冬だからこそです。日常では味わえない感覚を呼び覚ましてくれます。また一緒に森に遊びに行きましょう。

2月は、春の準備をしている木々や草花を観察しながら、森の中の小さな春をみんなで見つけたいと思います。皆さん、由加の森が待っていますよ。